

第 29 回 市民動物園会議

平成 28 年 6 月 23 日 (木)

15 : 00 から

円山動物園プラザ

< 次 第 >

- 1 「マレーグマ『ウッチー』の死亡事案に係る改善計画（中期的課題）」に対する提言書の検討進捗状況について～「人材確保・育成のあり方」
- 2 円山動物園基本計画（改訂版）の進捗状況等について
- 3 円山動物園第 2 次基本計画の策定に向けて
- 4 新着動物等について

【配布資料】

- 資料 1 「マレーグマ『ウッチー』の死亡事案に係る改善計画（中期的課題）」に対する提言書の検討進捗状況について
- 資料 2-1 札幌市円山動物園基本計画（改訂版）進捗状況<<成果指標>>
- 資料 2-2 札幌市円山動物園基本計画（改訂版）に基づく主な事業計画内容（H28）
- 資料 3-1 円山動物園 第 2 次基本計画策定の背景等と構成（案）
- 資料 3-2 円山動物園 第 2 次基本計画策定に向けた検討スケジュール（予定）
- 資料 4 新着・出産・転出等動物

市民動物園会議名簿

氏 名	職業（役職）
金子 正美	酪農学園大学農食環境学群環境共生学類教授
高井 哲彦	北海道大学大学院経済学研究科准教授
上田 得一	公募委員
後山 直久	株式会社 テレビ北海道 事業部部長
佐藤 香	公募委員
高山 裕史	札幌商工会議所観光部会部会長 株式会社 さっぽろテレビ塔 代表取締役社長
巽 佳子	公募委員
中山 法子	株式会社 BeggarSwindle 社員
八木 由起子	株式会社 えんれいしゃ/北海道生活 編集長
矢野 信一	円山西町町内会会長

※五十音順

「マレーグマ『ウッチー』の死亡事案に係る改善計画（中期的課題）」
に対する提言書の検討進捗状況について

項目	Ⅰ 組織強化のあり方	Ⅱ 人材確保・育成のあり方	Ⅲ 開園時間又は休園日のあり方
提言内容	<p>○獣医療を複合的に担う専門的な組織を新たに設けるべきである。</p>	<p>○受験資格について、現在の「高校卒業以下」から「高校卒業以上」に変更にするなど、飼育員を希望する者に対して、現状よりも広く門戸を開くべきである。</p> <p>○動物飼育員の職を現在の「現業職員」から「一般職員」に変更すべきである。</p> <p>○中長期的な視点に立った人材育成プログラムを整備すべきである。</p> <p>○飼育員の増員を検討すべきである。</p>	<p>○開園時間については、一定程度の短縮を図るべきである。</p> <p>あわせて、現在の冬期間（11月から1月）については、より適切な時期に延長するよう、見直しを図るべきである。</p> <p>○休園日については、現状に加え、一定程度の増加を図るべきである。</p>
進捗の状況	<p>・獣医療体制の強化を図るため、4月から新たに動物診療係を設置するほか、獣医師を増員することとしました。</p>	<p>●（第28回（H28.3.30）説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より高度な専門性をもった飼育員制度への見直しに向けて検討に着手しました。 ・今後アジアゾウの導入も控えており、新年度の採用方法について鋭意検討し、しっかりした飼育体制を整えていきます。 ・また、先進的な動物園での研修や関係機関における研究会への積極的な参加、大学などと連携した調査研究のさらなる充実など、中長期的な視点に立ち、飼育員の育成を進めていきます。 <p>●現在、以下の方向で検討中です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より高度な飼育の専門的知識・技術を有する専門職に移行し、一般職化 ・動物に関する専門的知識を持った人材を公募するために受験資格要件を見直し ・アジアゾウの導入も控えていることから、平成28年度中に採用試験を実施し、平成29年4月に若干名を採用 ・定期勉強会の開催の他、人材育成・能力開発のための各種研修、研究会への参加機会をいっそう附与 	<p>・動物舎の安全点検や職員の情報共有の拡充など、開園準備を万全に整えるために、4月から開園時間の短縮や休園日の増加を図ることとしました。</p> <p>【開園時間】</p> <p>3月1日～10月31日 09:30-16:30 11月1日～2月末日 09:30-16:00</p> <p>【休園日】</p> <p>毎月第2、第4水曜日（祝日の場合は翌日） 4月第3週の月～金曜日 11月第2週の月～金曜日 12月29日～31日</p>

※グレースケールの提言項目については、実施済み。

札幌市円山動物園基本計画(改訂版)進捗状況 <成果指標>

事業の視点	指標項目	当初値 (23年度)	実績値				目標値	出典
			(24年度)	(25年度)	(26年度)	(27年度)		
円山動物園の存在意義を高める事業	1 札幌市の環境教育の拠点としての役割 【来園者の環境教育施策理解度】	64%	70%	68%	78%	77%	90% (28年度)	アースディアンケート
	2 北海道の生物多様性確保の基地としての役割 【保護した猛禽類毎年3羽以上放鳥】	1羽	2羽	1羽	1羽	1羽	3羽 (28年度)	放鳥数
	3 多様なメッセージを発信するメディアとしての役割 【園内イベントの施策理解度】	42%	62%	80%	93%	91%	80% (28年度)	主要イベントアンケート
円山動物園を特徴づけ、際立たせる事業	4 「わたしの動物園」という視点からの行動 【アニマルファミリー20,000人】 ※廃止に伴い、新たに「サポートクラブ制度」創設	旧制度 796人	旧制度 680人	旧制度 447人	447人 ※25年末から新規募集停止	3,043口 ※新制度	20,000口 (28年度) ※新制度	サポートクラブ会員数
	5 生物多様性の確保に向けた行動 【生物多様性の認知度】	33%	アンケート 未実施	65%	70%	85%	60% (28年度)	各事業時アンケート
	6 自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動 【公共交通機関での来園割合】	39%	30%	47%	41%	44%	50% (28年度)	主要イベントアンケート
集客施設としての実力を高める事業	7-1 持続可能な経営戦略 【年間来園者数100万人】	79.2万人	74.8万人	95.9万人	87.1万人	98.1万人	100万人 (26年度)	来園者数統計
	7-2 持続可能な経営戦略 【基礎収支の均衡】	▲1.41億円	▲1.61億円	▲1.05億円	▲1.42億円	▲1.31億円	収支均衡 (28年度)	歳入・歳出決算額
	8 ソフト事業の展開 【イベント満足度】	67%	97%	98%	96%	97%	100% (28年度)	主要イベントアンケート
	9 施設整備と動物管理 【新施設や展示内容の満足度】	68%	アンケート 未実施	アンケート 未実施	82%	77%	100% (28年度)	施設展示アンケート

目標達成

札幌市円山動物園基本計画(改訂版)に基づく主な事業計画内容(H28)

事業の視点	28年度の主な事業計画内容
円山動物園の存在意義を高める事業	<ul style="list-style-type: none"> ・園内に生息する野生動物を通じた環境メッセージの作成 ・新ホッキョクグマ・アザラシ館やゾウ舎、新類人猿館が目指すものに関する積極的な情報発信 ・野生動物の復元に関する具体的な取組の推進 ・大倉山ジャンプ競技場・円山動物園・商業施設・バス事業者との連携による周遊促進サービスの向上 ・SAPPORO CITY JAZZ パークジャズライブの園内開催
円山動物園を特徴づけ、際立たせる事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアガイドによる、100名以上の大規模団体の受入機会拡大 ・サポーター向けプレゼントの配布実施 ・寄附対象の拡大に向けた検討 ・図書館と科学館の連携による「調べる学習モデル」の開発(CISEネット関係) ・第1駐車場の改良事業・実施設計 ・大倉山ジャンプ競技場・円山動物園・商業施設・バス事業者との連携による周遊促進サービスの向上(再掲)
集客施設としての実力を高める事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォータースライダーの開催 ・正門ロータリー再整備の実施設計 ・アフリカゾーンの全面オープン ・新しい飼育員制度の導入 ・観光客の誘客及びアフリカゾーン全面開業による入園者数の増加に伴う入園料収入の拡大 ・施設内温度管理の徹底、節水等による光熱水費の節減 ・飼料在庫管理の徹底や調達方法の見直し等による購入経費の節減 ・無料Wi-Fiサービスの提供 ・動物園へのアクセスを明記した多言語版パンフレットの市内ホテルへの配布 ・動物園ホームページの多言語化 ・熱帯動物館の記録映像作成等 ・屋外ベンチの増設 ・類人猿館改築に関する基本設計の開始 ・バイオ醗酵処理機3号機設置に係る実施設計 ・大型(3号)冷蔵庫改修工事の実施設計 ・既存トイレのクリーンアップ

円山動物園 第2次基本計画策定の背景等と構成（案）

第2次基本計画策定の背景等

《策定の背景》

- 1 平成24年度に策定した基本計画（改訂版）の計画期間が28年度で終了すること。
- 2 現計画にないアジアゾウの再導入が決定されるとともに、アフリカゾーンをはじめ、新ホッキョクグマ・アザラシ館等の魅力ある施設の開業に伴い、大幅な来園者数の増加が見込まれること。
- 3 動物園を取り巻く社会環境変化に対応した役割を担うため、必要な管理運営の改善を着実に進めていく必要があること。

《計画期間》

- ・平成29年度（2017年度）～平成38年度（2026年度） 10年間
- ※集中取組期間：平成29年度（2017年度）～平成33年度（2021年度） 5年間

《（参考）これまでの計画》

- ・基本計画：平成19年度～平成28年度
- ・基本計画（改訂版）：平成24年度～平成28年度

第2次基本計画の構成（案）

1 第1次基本計画（改訂版）の総括・評価

第1次基本計画（改訂版）で掲げた事業や成果指標の達成状況についてまとめ、実施結果を総括する。

2 円山動物園の現状と課題

円山動物園を取り巻く社会環境変化や来園者数と経常収支の推移等を踏まえ、園の飼育展示や経営の現状と課題についてまとめる。

3 第2次基本計画の概要

将来の円山動物園の姿を描くとともに、飼育展示と経営の基本的な考え方についてまとめ、必要となる施策の柱や方向性を整理する。

4 具体的な取組と施策の展開

上記の考え方を具現化して目標を達成するために必要な施策や取組についてまとめる。

5 計画の推進に向けて

計画の実現に向けた推進体制と進行管理の方法についてまとめる。

円山動物園 第2次基本計画策定に向けた検討スケジュール（予定）

検 討 回	市民動物園会議での主な議論
<p>第1回</p> <p>（第29回市民動物園会議）</p> <p>6月23日（木）</p>	<p>○ 現行計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の概要について ・ 計画の進捗状況について ・ 平成28年度の取組について <p>○ 第2次基本計画案の検討①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画策定の背景及び構成について ・ 策定に向けた検討スケジュールについて
<p>第2回</p> <p>（第30回市民動物園会議）</p> <p>9月～10月</p>	<p>○ 第2次基本計画案の検討②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他園館調査の結果について ・ 円山動物園の現状と今後の見込みについて
<p>第3回</p> <p>（第31回市民動物園会議）</p> <p>11月～12月</p>	<p>○ 第2次基本計画案の検討③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の取組に関する総括について ・ 第2次基本計画の方向性等について ・ 第2次基本計画に基づく今後の具体的な取組と施策について
<p>1月～2月</p>	<p>○ パブリックコメント</p>
<p>第4回</p> <p>（第32回市民動物園会議）</p> <p>2月～3月</p>	<p>○ 第2次基本計画案の検討④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パブリックコメントの実施結果について ・ 上記を踏まえた最終計画案について

主な新着動物・出産の状況

月 日	内 容
3月25日	フンボルトペンギン 1羽入園（長崎ペンギン水族館より）
4月12日	サーバルキャット 1頭入園（業者より）
4月27日	エゾユキウサギ 1頭出産（初認）
5月26日	エランド 1頭入園（九州自然動物公園より）
6月6日	エゾモモンガ 3頭出産（初認）
6月13日	アカツクシガモ 3羽孵化（2羽死亡）
6月15日	シセンレッサーパンダ 1頭出産

主な転出動物・死亡の状況

月 日	内 容
3月24日	フンボルトペンギン 1羽搬出（長崎ペンギン水族館）
3月25日	マレーベニナメラ 1頭死亡
3月28日	コシベニペリカン 1羽死亡
3月30日	ユキヒョウ 雌1頭搬出（名古屋市東山動物園）
4月3日	ベニイロフラミンゴ 1羽死亡
4月14日	リスザル 雌2頭搬出（東武動物公園）
5月6日	ウサギ 雌1頭死亡
6月1日	ブチハイエナ 雄1頭搬出（九州自然動物公園）
6月9日	ニホンザル 雌1頭死亡
6月22日	ライオン 雌1頭死亡